

館蔵品展 もっと魅せます！板橋の前衛絵画

Surrealism & Abstract art

小牧源太郎《ラディオリア》1940年



〒175-0092
東京都板橋区赤塚5-34-27
tel:03-3979-3251 fax:03-3979-3252
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>

開館時間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）
休館日：月曜日、9月17日〔火〕（但し、9月16日〔月・祝〕、23日〔月・休〕は開館）
観覧料：無料
主催：板橋区立美術館

板橋区立美術館

2024.8.22 〔木〕
Thu

9.23 〔月・休〕
Mon

シュルレアリスムとアブストラクト・アート

Surrealism &
Abstract art

板橋区立美術館

2024.8.22^[木] Thu 9.23^[月・休] Mon

超現実主義と抽象主義、この二つが今日の国際的な造形芸術に現はれた、
もつとも重要なイズムの問題であることはいふまでもない

シュルレアリスム（超現実）とアブストラクト（抽象）芸術は1930年代から40年代にかけて、留学経験者や海外から持ち込まれた作品、画集や美術雑誌などを通じて日本に紹介されました。これまでにない表現の作品は、瀧口修造の言葉にあるように日本の主に若い画家や画学生たちを熱狂させ、1930年代後半を最盛期として、シュルレアリストのエルンストやダリ、アブストラクトの作品で知られるモンドリアンなどに影響を受けた作品が次々に発表されました。なかには、シュルレアリスムとアブストラクトの両方の特徴を併せ持つ作品までもが生まれています。戦争により画家たちの自由な制作は一時中断されますが、戦後もまた、画家たちはシュルレアリスムやアブストラクト、そして新たに紹介されたアンフォルメル作品などに影響を受けながら、日本の社会や画家自身の内面を反映するような作品を発表し続けました。本展では、戦前から戦後にかけて、画家たちを魅了した日本におけるシュルレアリスムとアブストラクト・アートを、当館が所蔵する作品と資料から検証します。また、特集展示としてシュルレアリスムに影響を受け、長く板橋区前野町に暮らした画家、古沢岩美の作品と新収蔵資料をご紹介します。

●講演会（事前申込不要）

9月7日[土] 14:00-15:30

1930年代日本の「前衛」地図

——抽象とシュルレアリスムへ

講師 | 谷口英理氏（国立アートリサーチセンター 主任研究員）

定員 | 60名（先着順） 参加費 | 無料

●美術講座（要事前申込）

9月21日[土] 14:00-15:30

板橋のシュルレアリスムとアブストラクト

講師 | 弘中智子（当館学芸員）

定員 | 20名（申込方法は当館HPをご覧ください）

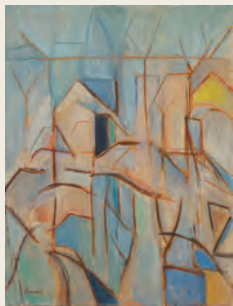
参加費 | 500円

●ギャラリートーク（事前申込不要）

8月24日[土] 14:00-14:30

9月14日[土] 14:00-14:30

参加費 | 無料

参加方法などの詳細はHPまたは
お電話（03-3979-3251）にてお問い合わせください。井川（間所）紗織《女Ⅲ》
1955年井上照子《まひる》
1953年永井東三郎《作品》
1938年寺田政明《夜（眠れる丘）》
1938年

全て板橋区立美術館蔵

交通案内

- 徒歩
都営三田線「西高島平駅」下車約14分
- 路線バス（1時間に1〜2本程度 所要時間約10分）
 - ①東武東上線「成増駅」北口2番のりば
「増17 区立美術館経由 高島平操車場」行き「区立美術館」下車
※東京メトロ有楽町線・副都心線「地下鉄成増駅」も利用可（5番出口）
 - ②都営三田線「高島平駅」西口2番のりば
「増17 区立美術館経由 成増駅北口」行き「区立美術館」下車
- タクシー
東武東上線「成増駅」北口または都営三田線「高島平駅」西口より約5分

板橋区立美術館 〒175-0092 東京都板橋区赤塚 5-34-27
tel:03-3979-3251 fax:03-3979-3252
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>

